



サウジ、原油の自主減産を年末まで延長 10カ月ぶり高値

サウジアラビアは5日、現行の日量100万バレルの原油の自主減産を12月まで3カ月延長すると表明した。ロシアも同日、年末にかけて輸出量を30万バレル減らすと発表した。原油需給が引き締まるとの思惑から、国際指標の北海ブレント原油先物は一時1バレル90ドル台と前日比1%上昇し、10カ月ぶりに90ドルを上回った。

サウジとロシアがそろって原油価格を下支えする姿勢を改めて示した形だ。サウジ国営通信によると、同国は自主減産を1カ月ごとに見直す。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物は一時1バレル87ドル台と前日比2%上昇した。

サウジは6月、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国でつくる「OPECプラス」の協調減産とは別に、7月に独自に100万バレルを追加減産すると表明。その後、8月と9月も続けると発表していた。



円、下落 147円台半ば 財務官発言で底堅く

6日早朝の東京外国為替市場で円相場は下落している。8時30分時点は1ドル=147円43~45銭と前日17時時点に比べ53銭の円安・ドル高だった。5日の米長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を意識した円売り・ドル買いが先行した。神田真人財務官が6日朝、海外市場での円の急落について「あらゆる選択肢を排除せずに適切に対応する」などと発言し、円買い介入への警戒感は相場を下支えした。

5日の海外市場では円は一時147円80銭と2022年11月上旬以来およそ10カ月ぶりの安値をつけた。原油高によるインフレ圧力の高まりで米連邦準備理事会（FRB）による金融引き締めが長引くとの見方などから米長期金利が上昇した。

中国の景気懸念が根強いうえ、5日発表の8月のユーロ圏の購買担当者景気指数（PMI）の改定値が下方修正された。世界景気に対する不透明感は主要通貨に対するドル買いを誘っている面もある。

もっとも、日本政府・日銀による円買い介入への警戒感が円の支えとなっている。神田財務官は「投機的な行動あるいはファンダメンタルズでは説明できない動きがみられており、高い緊張感を持って注視している」「こういった動きが続くようであれば、政府としてはあらゆる選択肢を排除せずに適切に対応する」と述べた。

発言が伝わった8時すぎには147円38銭近辺まで円が下げ幅を縮める場面があった。円安進行への当局による警戒感は「若干強まった印象」（FX会社のアナリスト）との声があり、円売り・ドル買いの勢いが鈍った。

円はユーロに対して下落している。8時30分時点は1ユーロ=158円14~17銭と、同12銭の円安・ユーロ高だった。

ユーロの対ドル相場は下落している。8時30分時点は1ユーロ=1.0726~27ドルと、同0.0030ドルのユーロ安・ドル高だった。5日の海外市場では1.0705ドルと、6月上旬以来およそ3カ月ぶりの安値をつけた。米長期金利の上昇やユーロ圏の景気不安からユーロ売り・ドル買いが続いている。



ENEOS和歌山製油所の跡地、脱炭素モデル地区に

10月に操業を停止するENEOS和歌山製油所（和歌山県有田市）の跡地利用について、同社と経済産業省、県、地元自治体は5日、今後の方向性に関する「中間とりまとめ」を発表した。石油基地からカーボンニュートラル（温暖化ガス排出実質ゼロ）を先導するGX（グリーントランスフォーメーション）モデル地区をめざす「未来環境供給基地」と位置付け、関連企業の誘致を急ぐ。

総面積248万平方メートルの同製油所を、太陽光発電実施中のエリアを除き大きく2つのゾーンに分ける。

次世代エネルギー創造ゾーンは、昨年発表した仏エネルギー大手のトタルエナジーズとの持続可能な航空燃料（SAF）の製造に加え、再生可能エネルギーなど次世代のエネルギーを創造し供給するゾーンとする。



塩ビ輸出価格が一段高

建設資材や日用品など幅広い用途のある塩化ビニール樹脂のアジア向け輸出価格が一段と上がった。国内大手メーカーの9月積みはインド向けが1トン940～960ドル。中心値は前月比70ドル（8%）高く、6カ月ぶりの高値だ。農業インフラ向けの需要が影響した。

インドはモンスーン期（雨期）が明ける9月中旬以降から需要期に入る。2024年春の総選挙を控え、公共インフラ投資が活発化している。「票田である農業分野向けの投資を増やしており、灌漑（かんがい）に使うパイプ向けを中心に引き合いが増えている」（塩ビ樹脂メーカー）。

インドの貿易統計によると、1～6月の塩ビ樹脂輸入量は174万1127トンと前年同期比63%増えた。増える内需に供給能力が追いついておらず、最大の輸入国だ。

中国向けは同70ドル（9%）高い1トン885～895ドルだった。原燃料高による現地価格の上昇を反映した。

国内メーカーが値決めの参考にする台湾の塩ビ大手の輸出価格はインド向けが80ドル高い1トン900ドル程度、中国向けは70ドル高い885ドル程度で決着したようだ。



ヒマシ油が3%安 7~9月大口価格

塗料や潤滑油など工業用に使われるヒマシ油の7~9月期の大口需要家渡し価格が下落した。7~9月期の大口価格は1キロ575~595円程度と、前期に比べて1キロ当たり20円（3.3%）程度下がった。

ヒマシ油はメーカーと需要家が原料相場や需給環境を基に四半期ごとに交渉で大口価格を決める。交渉の参考となる4~6月期の国際相場は下落した。世界景気の減速を背景に需要が鈍ったためだ。

もっとも、足元の国際相場は反発している。精製前のヒマシ原油の国際指標であるロッテルダム現物相場は8月末時点で1トン1850ドル前後と、6月上旬に付けた直近安値から200ドル（12%）程度上昇した。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	7/25～7/31	84.73	3.84	141.71	0.80	75.52	3.83
	8/1～8/7	86.09	1.36	143.75	2.04	77.83	2.31
	8/8～8/14	87.52	1.43	144.90	1.15	79.76	1.93
	8/15～8/21	85.82	▲1.70	146.77	1.87	79.22	▲0.54
	8/22～8/28	85.55	▲0.27	146.92	0.15	79.05	▲0.17
	8/29～9/4	87.74	2.19	147.16	0.24	81.21	2.16
水曜日～ 火曜日	7/26～8/1	85.04	3.47	141.88	0.43	75.88	3.31
	8/2～8/8	86.19	1.15	143.87	1.99	77.99	2.11
	8/9～8/15	87.72	1.53	145.53	1.66	80.29	2.30
	8/16～8/22	85.53	▲2.19	146.90	1.37	79.02	▲1.27
	8/23～8/29	85.58	0.05	146.98	0.08	79.11	0.09
	8/30～9/5	88.31	2.73	147.16	0.18	81.73	2.62

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート